

ベースライン設定の根拠【参考資料】

1 経緯

仙崎湾周辺での本プロジェクトの活動場所は、昭和 58 年度から実施した「長門海域総合開発事業（海洋牧場構想）」及び、平成 29 年度から実施した「外海地区水産資源環境整備事業」で整備された人工基質に付着した藻場であり、保全活動等の結果により現在に至るものである。

2 事業内容

(1) 長門海域総合開発事業（海洋牧場構想）

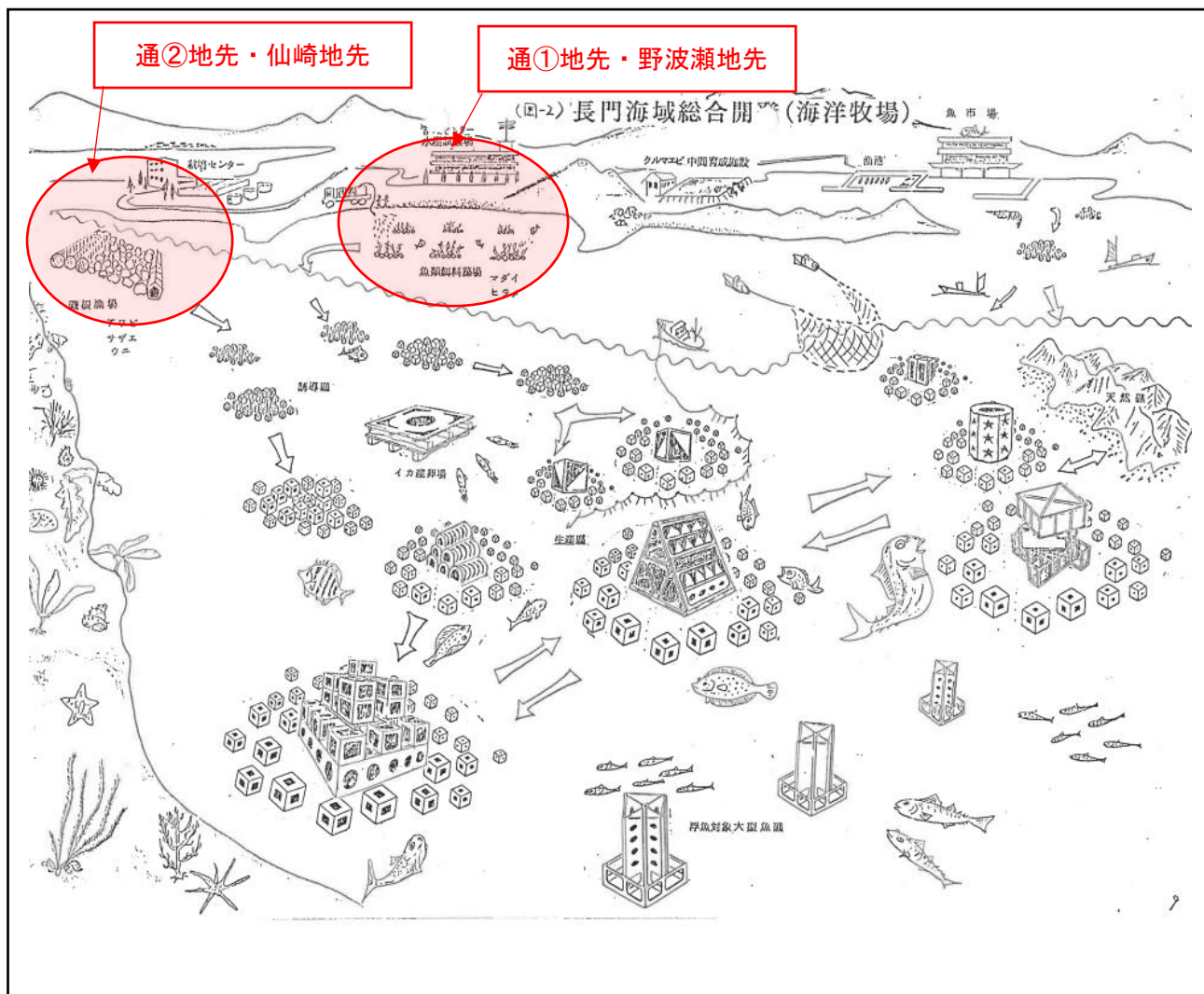
資源管理型漁業を展開するため、我が国周辺の沿岸漁場の見直しと再開発により、漁業産業の拡大を図ることを目的に、実証の場として全国 4 箇所のモデル海域の一つとして選定されたもの。

① 磯根漁場整備事業（魚類主対象磯根漁場）

- ・ 対象箇所：通②地先、仙崎地先
- ・ 目的：磯根生物であるアワビ・ウニに対し餌料を供給する直接的な増産機能のほか、マダイを代表とした稚仔の餌となる付着生物等の供給という間接的な増産機能によるより魚類等の増産を図る。
- ・ 底質状況：深川湾（仙崎地先）は粗砂～極細砂の砂底質
仙崎湾（通②地先）は泥底質帯
- ・ 整備状況：投石は 1 t 石を使用し、約 10m の範囲にわたって、平均厚さ 0.9m で敷設し、中心間距離は 20m

② 増殖場整備事業（貝類増殖場）

- ・ 対象箇所：通①地先、野波瀬地先
- ・ 目的：種苗放流と連携し、アワビ等の有用貝類の増産を図る。
- ・ 底質状況：通①地先は砂質帯と転石帯の混在
野波瀬地先は、底質のほとんど砂礫質
- ・ 整備状況：前面に 1 t 石を使用し、その背後に 0.2～0.5 t 石及び石詰ブロックを設置



(2) 外海地区水産資源環境整備事業

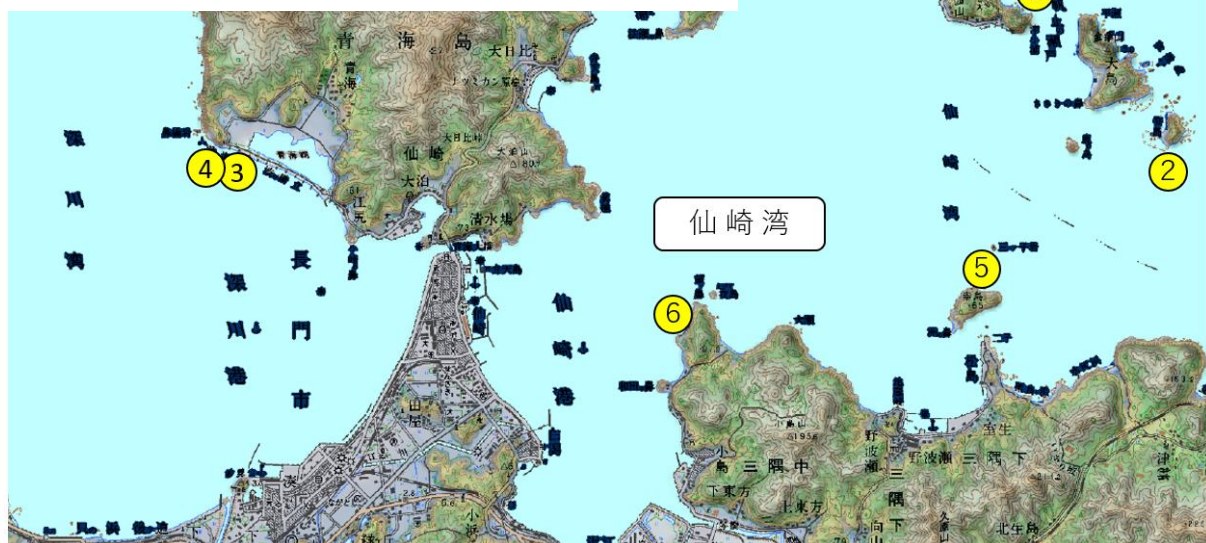
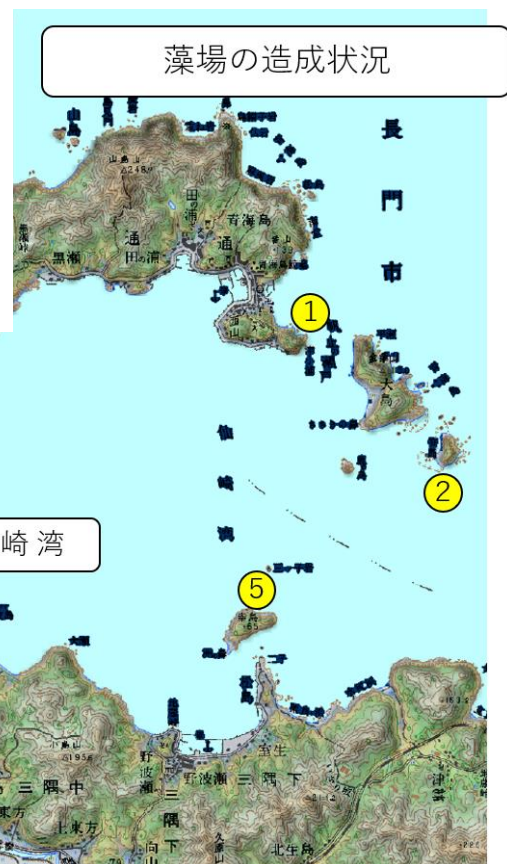
平成 25 年度の高海水温の影響による多年性海藻の大量枯死から藻場を回復させるため、平成 25～29 年に実施した藻場の現状把握調査等の結果を踏まえ、藻場の消滅した長門市の海域の回復に向け、核となる藻場を造成するもの。

- ・ 対象箇所：仙崎地先、小島地先
- ・ 底質状況：仙崎地先は荒砂～極細砂の砂底質
小島地先は泥底質帯
- ・ 整備状況：投石は 0.5 t 石を使用し、1 ユニットを 15m 角の石材礁 4 基とその中央部に核藻場礁を設置するものであり、仙崎地先は 3 ユニット、小島地先は 2 ユニットの設置

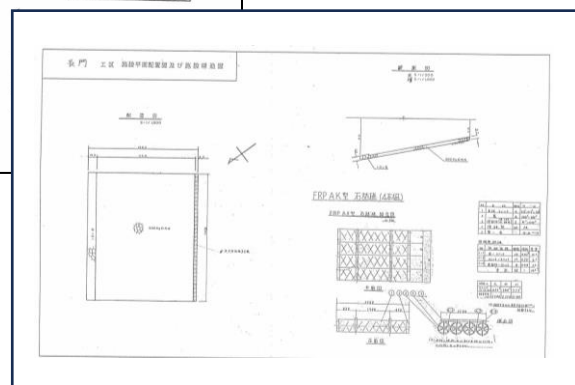
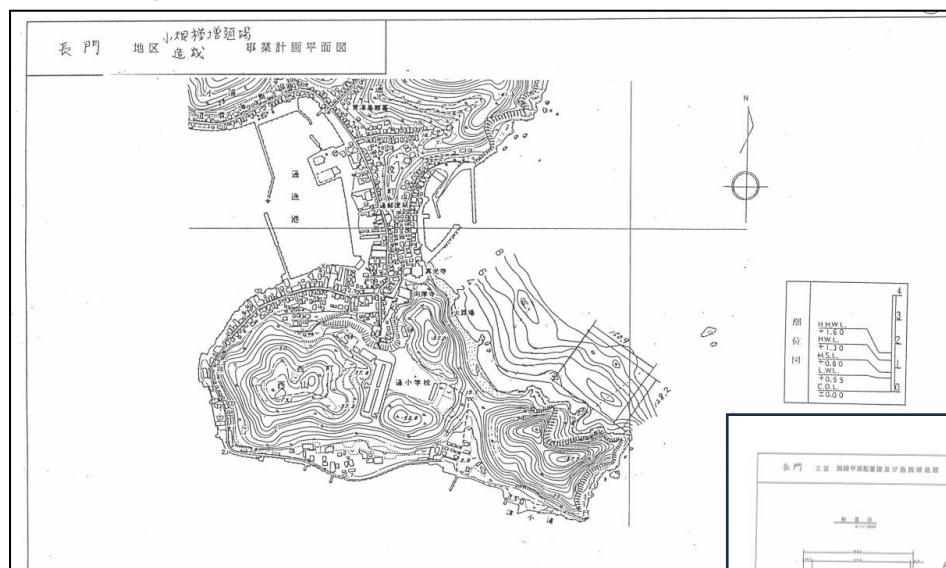
【参考】

○ 位置図

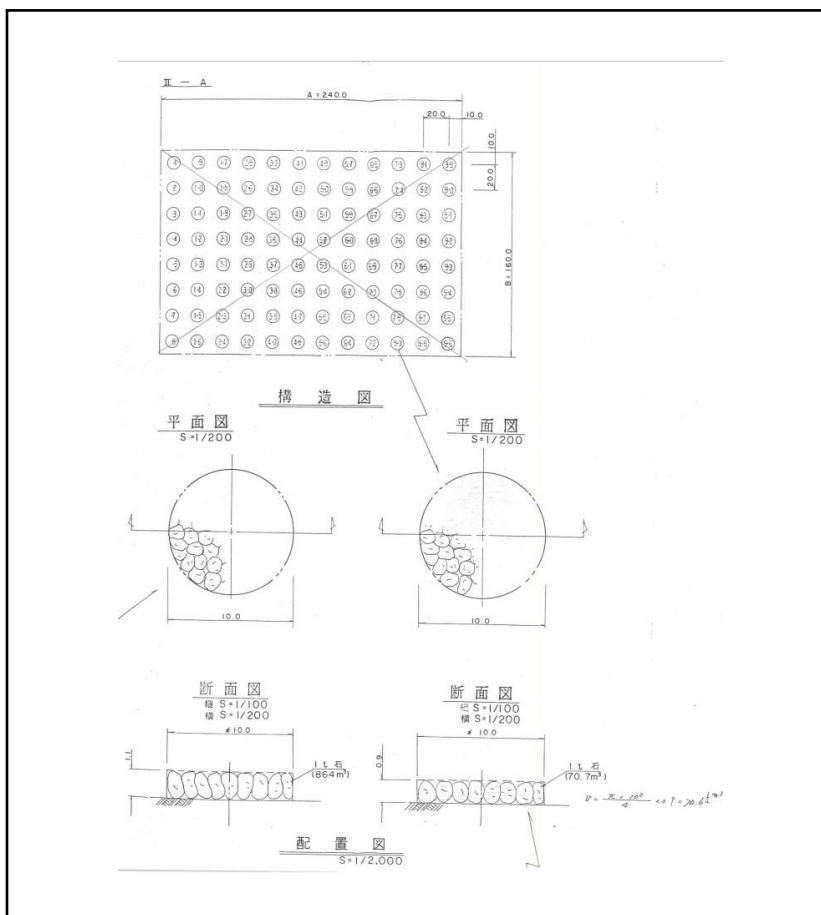
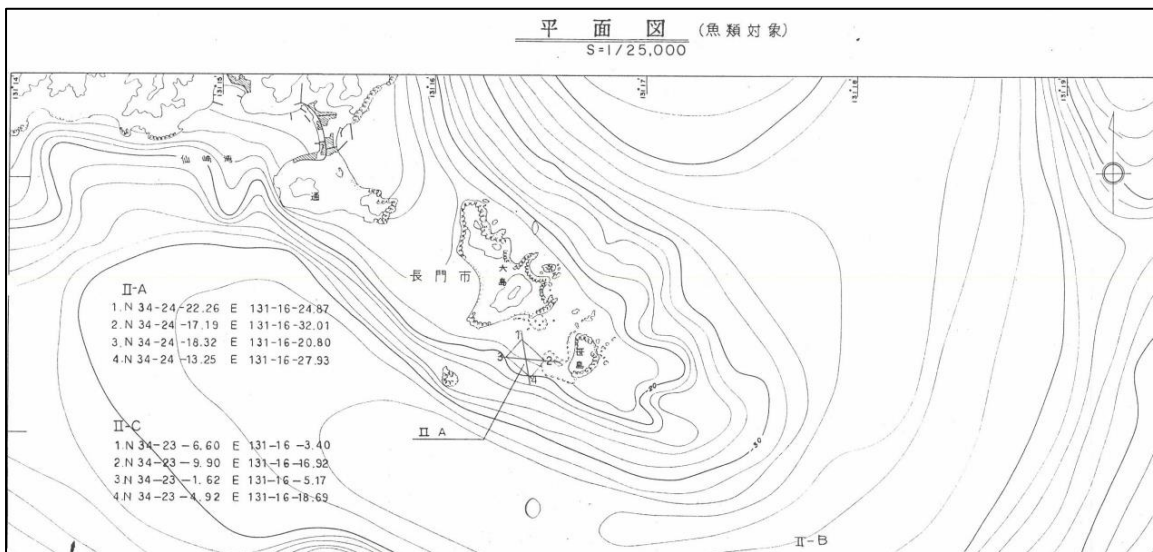
番号	地先名	造成年	事業名
①	通①	S60	増殖場整備事業（貝類増殖場）
②	通②	H1	磯根漁場整備事業（魚類主対策磯根漁場）
③	仙崎	S59	磯根漁場整備事業（魚類主対策磯根漁場）
④		R1	外海地区水産資源環境整備事業
⑤	野波瀬	S58	増殖場整備事業（貝類増殖場）
⑥	小島	R1	外海地区水産資源環境整備事業



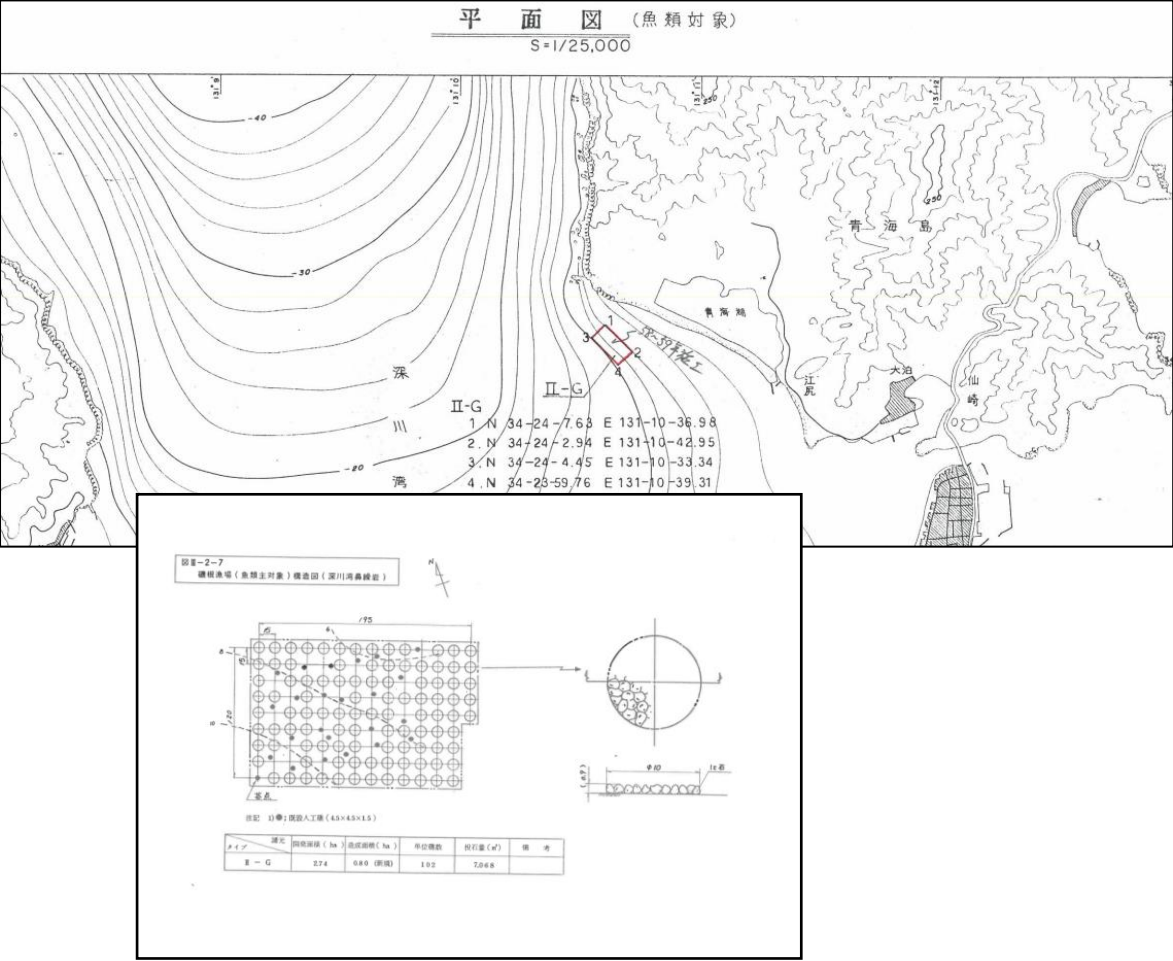
○ 通①地先【増殖場整備事業（貝類増殖場）】



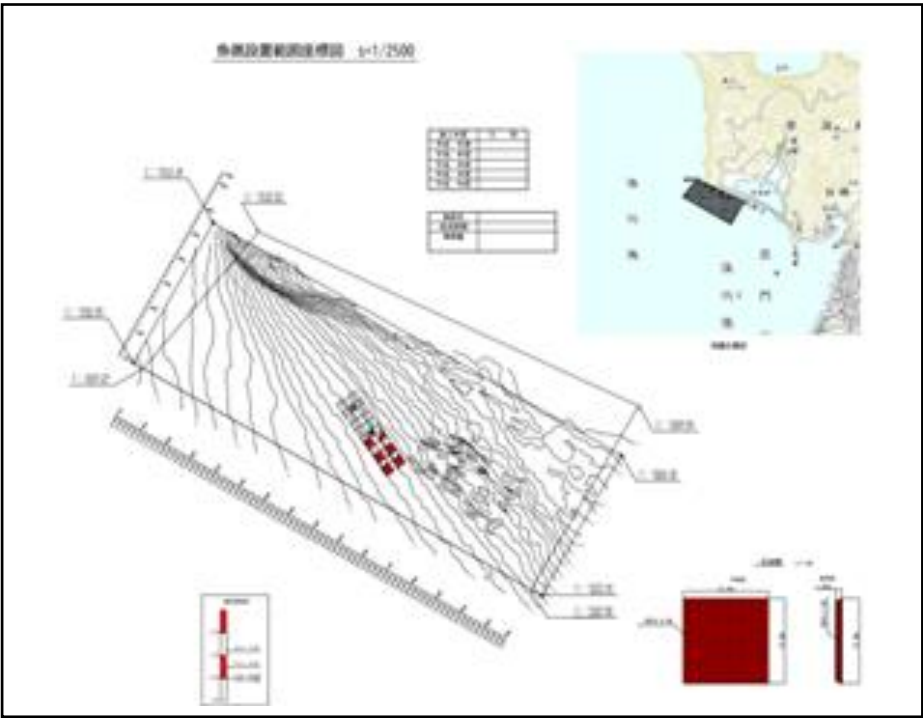
○通②地先【磯根漁場整備事業（魚類主対象磯根漁場）】



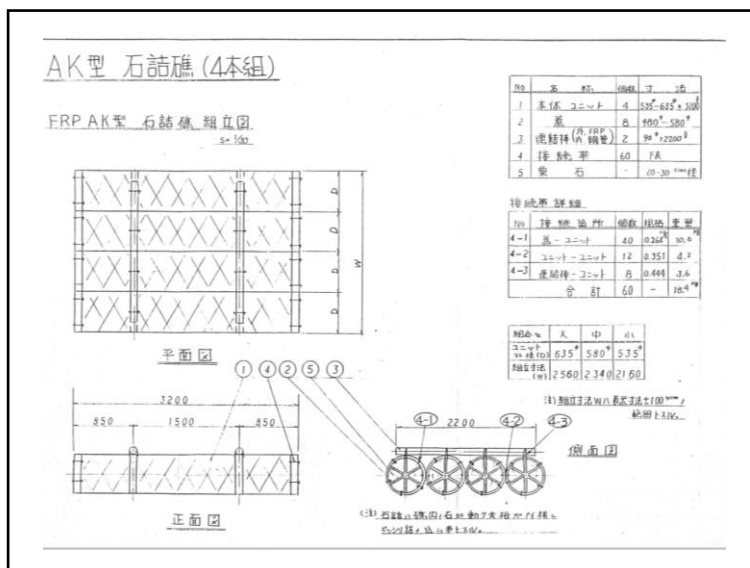
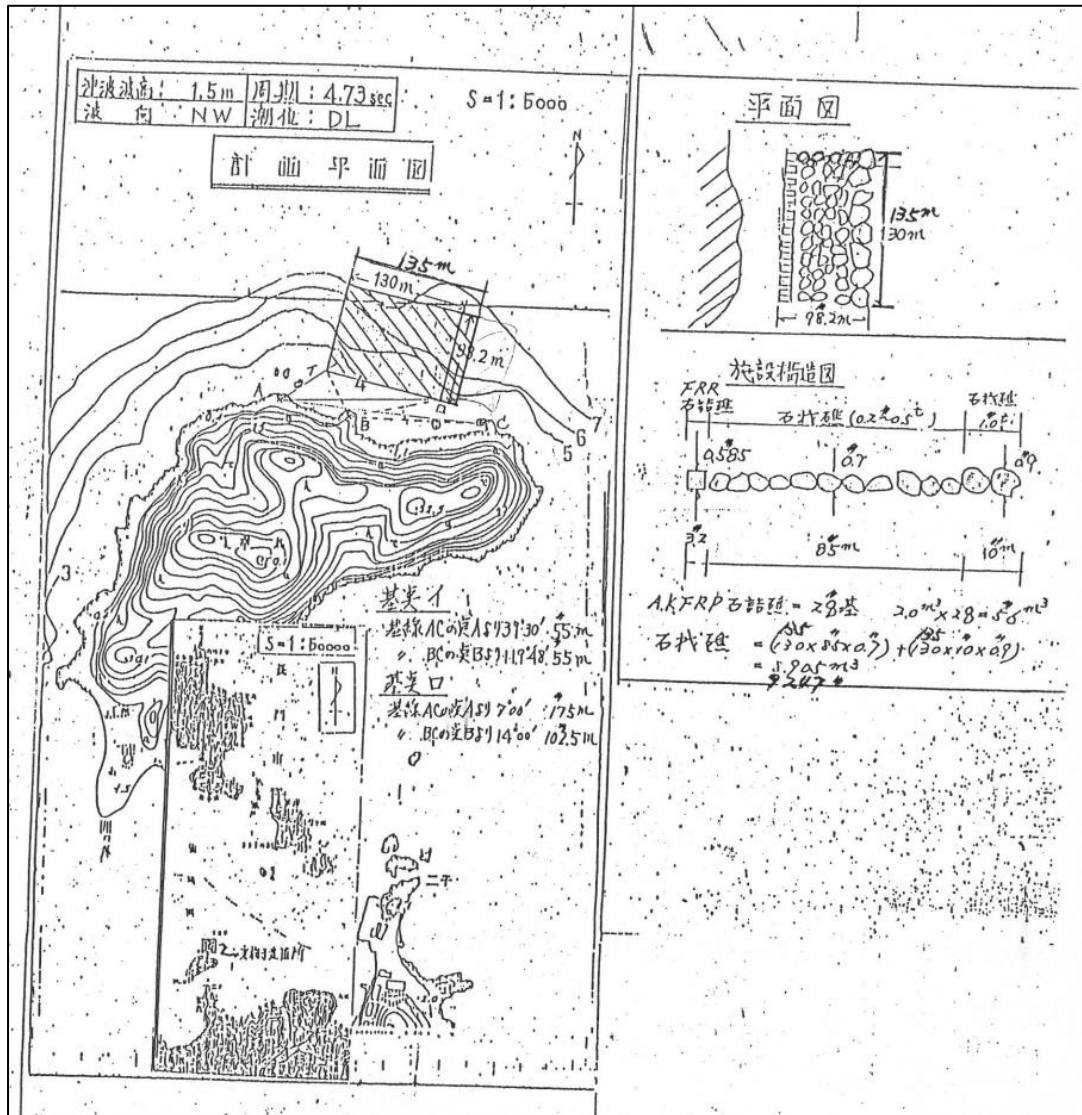
○仙崎地先【磯根漁場整備事業（魚類主対象磯根漁場）】



○仙崎地先【外海地区水産資源環境整備事業（藻場造成）】



○野波瀬地先【増殖場整備事業（貝類増殖場）】



○小島地先【外海地区水産資源環境整備事業（藻場造成）】

